

インターバンクの声（2016 年 12 月 30 日）

トランプラリーが始まってからのドル円の高値は今日 15 日に付けた 118 円 60 銭台になりそうで、市場の年末予想値コンセンサスだった 114 円から 118 円の間にきっちり収まっただけの年越しになりそうだ。

昨日はスポット取引の決済応答日が新年入りしたことから、もう少し活発な取引になるとの予想も少なくなかったが、経済指標も 11 月の米卸売在庫速報や週間新規失業保険申請件数くらいしかなく、米長期金利の変化やポジション調整主体の取引にならざるを得なかったようだ。

前日の米 5 年債入札が堅調だったことから米長期金利が大幅に低下、それに合わせてドル売りが進んでいたが、その金利の低下が一旦落ち着いたことから 116 円台前半から後半へドルが反発した。その後、もう一度金利の低下につれてドル売りとなったが、またしても 116 円台前半で下げ止まった。ニューヨーク株式市場が小幅ながら下げて引けており、日本株が大納会に向けて大きな上げでもなければ、東京外国為替市場はドルの頭が重いまま今年最後の取引を終えそうだ。

提供：SBI リクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。